

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜本巣特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月20日(月) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜本巣特別支援学校 北館3階会議室
- 4 参加者
- |       |        |                                   |       |       |
|-------|--------|-----------------------------------|-------|-------|
| 会 長   | 山田 孝治  | 北方町商工会副会長                         |       |       |
| 副 会 長 | 森 久子   | 本巣市主任児童委員 (欠席)                    |       |       |
| 委 員   | 神山 弘彦  | 西秋沢自治会長                           |       |       |
|       | 松本 和久  | 岐阜聖徳学園大学教授                        |       |       |
|       | 牛丸 真児  | 瑞穂市社会福祉協議会<br>福祉総合相談センター主任相談支援専門員 |       |       |
|       | 橋本 民子  | 本巣市障害者基幹相談支援センター「えがお」<br>主任相談支援員  |       |       |
|       | 板倉 寿明  | 愛知淑徳大学講師                          |       |       |
|       | 清水 美典  | 希望が丘こども医療福祉センター相談支援専門員            |       |       |
|       | 藤田 佳正  | 当校PTA会長                           |       |       |
|       | 名知 由利香 | 当校PTA副会長                          |       |       |
| 学 校 側 | 神戸 茂   | 校長                                | 新沢 幸美 | 事務部長  |
|       | 牧村 貴志  | 教頭                                | 寺井 聡  | 教頭    |
|       | 栞原 正美  | 小学部主事 (欠席)                        | 原 和代  | 中学部主事 |
|       | 瀬下 裕基  | 高等部主事                             | 永井 久江 | 教務主任  |

## 5 会議の概要(協議事項)

## (1) 学校評価アンケートの結果等について

○学校評価アンケートの結果と分析

○各部の取組と課題

○学校祭(※11月17日・18日開催の「ゆめフェスタ」)

意見1: 学校評価アンケートの結果について、「分からない」との回答が多いことに対しては、保護者がアンケートの文言を具体的にイメージできるよう、周知の方法を考えていく必要がある。(複数)

学校評価アンケートの項目の欄に、例えば「○○○に取り組んでいる」「○部は、○○を実施した」等の具体事例を入れておくことで、設問を解釈する判断材料になるのではないかと。また、設問の仕方が難しい。PTAの方に答えにくいところを尋ねてみるのも一つではないかと。保護者と接する機会も今後増えてくる。少しずつ理解してもらえないかと。

意見3: 保護者が参観したい時間に参観できる、自由な授業参観はどうか。

意見4: 「分からない」と回答される保護者にとっては、個人情報に配慮しながらも、個々に応じた情報発信をしていく必要がある。情報を「見える化」していくことが大切である。

意見5: ホームページをもっと活用してもらえるとよい。見たときに、更新されていない所が多い。また、探したい項目も見つけにくさがある。更新されたときに、すぐメールを活用してお知らせがあると、保護者も見ることが増えるのではないかと。

意見 6：高等部生徒を対象としたアンケートについては、悩みごと等のサインを出している生徒を把握して、フォローしているのはよいことである。

各部の取組報告に関しては、和歌山県立紀伊コスモス特別支援学校の校外学習を好事例として参考にされるとよい。

意見 7：「ゆめフェスタ」を参観したが、児童生徒が発表している姿、大きな声を出して作業製品を販売している姿、就業体験を行った掲示発表等を見ることができた。これが本来の教育活動の姿である。（複数）

卒業生も参加できるような「ゆめフェスタ」になってほしい。

## (2) 作業製品価格について

意見 1：物価上昇を考えると、マフィンの価格変更はしなくても大丈夫か。

⇒価格が上がっている材料を使用していないので、現状の価格のままと考える。

意見 2：今後検討していただければよいが、かごバッグ（小）と布の袋をコラボするなどして、バッグの口を閉じることができる工夫を加え、中身が見えない製品開発をしていくとよい。

⇒今後の検討課題とする。

## (3) 保護者及び地域との連携等について（※進路支援部と支援センター部の取組と課題を説明）

意見 1：進路支援部が準備した保護者向けの資料については、保護者がよりイメージしやすくなるように、説明の仕方や資料の内容構成等を工夫してほしい。（複数）

例えば、「働く力」とは、具体的に分かるように示すことが大切である。例として挙げるならば、マスクを着ける力、手袋を着ける力、自分で余暇活動を充実できる力等。社会に出たとき、就職や就労できればよいのではなく、続けていくために必要な力を明確にしておくことが大切である。

意見 2：保護者は、グループホーム、ケアホームの情報提供や年金受給等についてもっと知りたいのではないか。

意見 3：一般就職の人数については、進路支援の数値目標として設定していくことで、保護者への発信力もあり、学校教育をけん引することにもなる。

意見 4：働く喜びをもてるように、小さいときから家庭でも手伝いをする中で、「喜んでもらえる」「ありがとうと言ってもらえる」「お礼を言ってもらって嬉しい」等の経験を積んでいくことが大切である。

意見 5：社会生活における人との距離感についても、学校生活の中でしっかり指導してほしい。

意見 6：保護者は、進路についても、また、相談することのできる場所についても情報がなく不安である。小・中学校の先生方が、高校、高等部へ入学することが目的ではなく、社会にでるときの姿を描いて教育することで、保護者も安心できるのではないか。自立を目指す本校教育のように、特別支援学校の教育をもっと知ってもらいたい。

意見 7：校訓「夢を育て、未来を創る」の言葉のように指導を継続していただいていることで、児童生徒は、好きなことを長く続けていくことができるように育まれていると考える。今後も、知恵を出し合って指導してほしい。

## 6 まとめ

- ・第2回学校運営協議会では、出席した9名の全委員より、学校評価アンケートの分析と検討について意見を賜ることができ、学校運営の在り方について保護者理解が深まるよう、具体的な助言を得た。
- ・作業製品の価格変更については、提案のとおり、出席した委員全員から承認を得た。
- ・進路支援部及び支援センター部の取組については、保護者理解がより深まるよう具体的な手立てについて助言を得た。